

2021（令和3）年度 東北大学法科大学院入学試験 一般選抜（前期）

試験科目：民事法（民法）

以下の【第1問】から【第4問】までのすべての問いに答えなさい。

なお、解答に際して民法の条文を参照する必要がある場合には、『ポケット六法 令和2年版』の395頁から528頁*を参照しなさい。

【第1問】（解答は10行程度で行いなさい。）

Aは、Bから賃借していた甲機械について、Aが甲機械の所有者でないことを過失なく知らないCに売却した。もっとも、Aが甲機械の使用を望み、Cがこれを了承したため、甲機械はAの手元に残されたままとなった。その後、Cは、Bが甲機械の所有者であることを知り、慌ててAから甲機械を受け取った。この場合において、Bは、Cに対して甲機械を自己に引き渡すよう請求することができるかについて、論じなさい。

【第2問】（解答は12行程度で行いなさい。）

AのBに対する債権甲がCとDに二重に譲渡され、いずれの譲渡についても確定日付のある証書によるAからBへの通知がBのもとに同時に到達した。この場合におけるBCDの権利関係について、①CはBに対して甲の全額について支払を求めることができ、②Dは、Bから全額の支払を受けたCに対して、受領した金銭（の一部）を自己に支払うように求める権利をもたないという見解がある。この見解の当否を、①②の各点に分けて論じなさい。

【第3問】（解答は5行程度で行いなさい。）

自動車を運転していたAは、前を走行していた車甲に衝突し、甲を運転していたBはむち打ち症になった。衝突時の双方の車の速度等から考えると、通常であればこのような場合、むち打ち症になったとしても3か月ほどで完治するはずであったが、Bは平均的体格に比べて首が長く、これに伴う多少の頸椎不安定症があったため、症状が重くなり、完治まで6か月程度と時間がかかった。この場合、AはBに生じた損害の全てについて損害賠償義務を負うかについて、論じなさい。なお、Aによる不法行為責任が成立することを前提に議論をしてよい。

【第4問】（解答は5行程度で行いなさい。）

相続人Aは、被相続人Bの唯一の相続人で、Bとは別居しており、長い間連絡を取っていなかった。Aは、令和2年3月1日、Bが死亡し自己が相続人となったことを知ったが、Bには相続財産が全くないと信じていた。令和2年7月10日、AはBに多額の債務があることを知った。この場合において、Aが相続放棄をすることができるかについて、論じなさい。